

2025 年度授業アンケート -論理国語 3 年次-



市立札幌藻岩高等学校 對馬光揮

1.背景

各教科が繋がりを持って探究的な学びを実現させるために、共通の目標を設定し、全教科で統一して実施できる授業アンケートを考案したい。

2.共通の目標

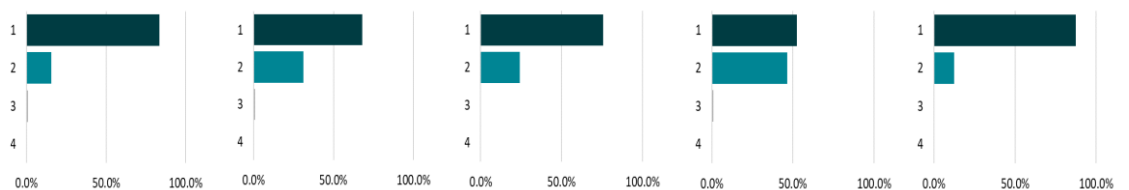
- a. 主体的な学び b. 協働的な学び c. 知識技能の向上 d. 思考力の育成 e. 表現力の育成
- f. 視野の広がり g. 日常や社会への波及 h. 安心安全な土壌 i. 個性や強み j. 試行錯誤
- k. 粘り強い思考 l. 探究的な学び（「考える技法」を援用） m. グラデュエーション・ポリシー

3.方向性

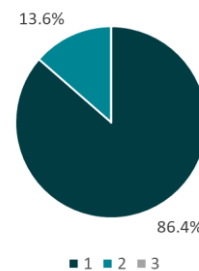
- a. 生徒が教員を評価するものではなく、生徒が授業をどのように捉えたのかを知り、授業改善に活かすことができるアンケートとして実施したい。
- b. 授業を振り返ることで生徒自身が学習を内省するものにした。

4.実施報告(103名)

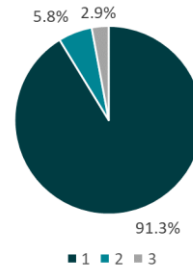
グラデュエーション ポリシー	ことばの力		やり抜く力		思い浮かべる力		試そうとする力		考える力	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1.身に付いた	86	83.5%	70	68.0%	78	75.7%	54	52.4%	90	87.4%
2.どちらかといえば、身に付いた	16	15.5%	32	31.1%	25	24.3%	48	46.6%	13	12.6%
3.どちらかといえば、身に付かなかった	1	1.0%	1	1.0%	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%
4.身に付かなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%



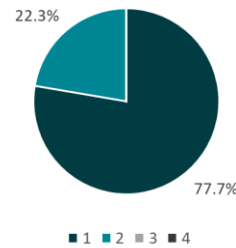
A.主体的な学習について	人数	%
1.授業を通して湧き上がってくる疑問や関心を軸にして、生徒自らが主体的に学習に取り組もうとする授業だった。	89	86.4%
2.疑問や関心が湧き上がってくることは少なかったが、与えられた課題については積極的に取り組もうとする授業だった。	14	13.6%
3.与えられたものをこなすだけの一方的な授業だった。	0	0.0%



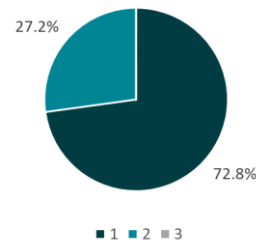
B.協働的な学習について	人数	%
1.他者と協働することによって、自分ひとりでは気づくことができないような発見や価値観に触れることができ、他者と協働して勉強することの意味を感じられる授業だった。	94	91.3%
2. 他者と交流することはあったが、それによって思考が深まることはあまりなく、他者と協働して勉強することの意味を実感できない授業だった。	6	5.8%
3.個人で取り組むことがほとんどで、他者と交流することは少ない授業だった。	3	2.9%



C.読解や記述など、知識・技能の向上について	人数	%
1.知識(その教科に関する知識理解)・技能(獲得した知識を活用する力)の向上に繋がった。	80	77.7%
2.どちらかといえば、知識・技能の向上に繋がった。	23	22.3%
3.どちらかといえば、知識・技能の向上に繋がらなかった。	0	0.0%
4.知識・技能の向上に繋がらなかった。	0	0.0%



D.思考の深化と視野の広がりについて	人数	%
1.様々な視点から思考を深めたり、視野を広げるきっかけになり、学んだことが他教科や日常生活に繋がることがあった。	75	72.8%
2.学んだことが他教科や日常生活に繋がることはなかったが、様々な視点から思考を深めたり、視野を広げるきっかけになった。	28	27.2%
3.新たな情報や知識が伝達される授業ではあったが、思考が深まったり視野が広がることはなかった。	0	0.0%



Dで1を回答した生徒→どのような場面で他教科や日常生活への繋がりを感じましたか。(ChatGPTで要約)

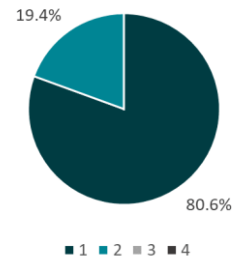
1	小論文・文章表現力が進路・他教科・実生活に直結したという実感
	<ul style="list-style-type: none"> ◇推薦・総合型選抜、小論文、自己推薦書、面接への活用 ◇レポート・探究・プレゼン・スライド作成への応用 ◇英語エッセイ、ディスカッションでの論理構成・反論力の向上 ➡「大学受験のため」から「将来どこでも必要な力」への意識転換が起きている ➡書く前に考える／根拠を集める／主張を明確にする、というプロセスが定着
2	他教科(特に英語・数学・理科・社会)への汎用的スキルの転移
	<ul style="list-style-type: none"> ◇英語:長文読解、構成把握、接続詞、主張位置の意識 ◇数学:複数解法、証明、論理の筋道 ◇理科:実験問題、レポートの因果関係 ◇社会・日本史・地理:資料読解、背景理解 ➡「問題文はすべて日本語」という認識が広がっている ➡正誤より「なぜそうなるか」「根拠はどこか」を重視する姿勢が定着
3	多角的視点・他者の意見を取り入れる姿勢の定着
	<ul style="list-style-type: none"> ◇自分の考え→他者の考え→再構築、という循環 ◇答え合わせ・意見交換・他人の小論文を読む経験 ◇「自分の考えが絶対ではない」という気づき ➡学習面だけでなく、人間関係・話し合い・部活動にも波及 ➡感情ではなく理由で説明する姿勢が身についている

	社会的テーマ(自己責任論・医療・老い・格差など)を通した価値観の変容
4	◇ニュースの見方が変わった ◇家族との対話が生まれた ◇自分の立場・環境・将来を考えるきっかけになった →「知識」ではなく「ものの見方」が変化 →批判的に考える態度(本当にそうか?別の視点は?)が日常化
	読解スキルの向上と学習効率の改善
5	◇重要部分とそうでない部分の取捨選択 ◇時間配分の改善 ◇共通テスト・模試での得点向上実感 →「読む量」より「読み方」への意識転換 →戦略的に読む力が他教科にも波及
	学ぶ意味・生き方への内省の深化
6	◇「なぜ学ぶのか」「どう生きたいか」を考えるようになった ◇進路選択・将来像と授業内容が結びついた ◇心の持ち方が変わった、楽になったという声も →論理国語が「教科」を超えて人生観に触れている →知的成熟を自覚する表現が多い
	情報収集・調べ学習・メディアリテラシーの向上
7	◇調べて考える習慣 ◇AI・医療・社会問題などへの関心拡大 ◇情報を鵜呑みにせず吟味する姿勢 →「調べること」が目的ではなく、思考の途中段階として内面化されている →「情報を集める」よりも「情報を疑い、選び、結びつける」段階に進んでいる
総評	<p>今回の回答から明確に読み取れるのは、<u>論理国語が「国語の授業」にとどまらず、思考の方法そのものを育てていた</u>という点です。</p> <p>特に、「正解のない問いに向き合う」「根拠をもって考え、書き、伝える」「他者の視点を取り入れて再構築する」という一連の学習経験が、<u>他教科・受験・日常生活・将来設計へと自然に転移している</u>ことが、生徒自身の言葉で多数語られていました。</p> <p>また、「ニュースの見方が変わった」「家族と話すようになった」「考え方が変わった」といった記述は、<u>論理国語が知識の獲得ではなく、思考と価値観の形成に寄与した証</u>左と言えます。</p> <p>3年生という進路選択の時期において、「<u>学ぶ意味」「考えるとはどういうことか</u>」を身体感覚として獲得できたことは、今後の学習や人生においても長く残る大きな成果だと評価できます。</p>

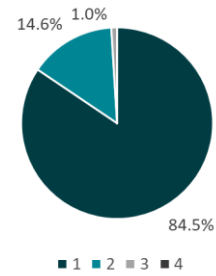
Dで2を回答した生徒→どのような場面で思考の深化や視野の広がりを感じましたか。(ChatGPTで要約)

1	小論文・レポート作成を通した「思考の深まり」の実感
2	多角的視点・他者の意見に触れることによる視野の拡張
3	普段触れないテーマ・立場との出会いによる思考の刺激
4	思考の成長を「過去の自分」との比較で自覚している
5	読解・演習を通した「考えながら読む力」の定着
6	情報収集・資料読解による知的視野の拡張
7	主体的に考える姿勢・思考習慣の形成
総評	<p>②を選択した生徒の回答からは、「<u>思考が深まった・視野が広がった</u>」という実感は明確に存在していることがはっきり読み取れます。</p> <p>一方で①群との違いは、「他教科」「日常生活」「進路・将来」といった<u>具体的な転移先を、まだ自覚的に言語化していない点</u>にあります。</p> <p>しかし実際には、「多角的に考える」「他者の意見を取り入れる」「根拠をもって書く」「主体的に問いを立てる」といった力は十分に育っており、それらは①群に見られた汎用的思考力の「<u>前段階</u>」、あるいは<u>形成途中の段階</u>と位置づけられます。</p> <p>言い換えれば、②群は「<u>思考の深化・視野の拡張を授業内で確かに経験し、それがまだ自分の生活全体に広がっていることには気づいていない段階</u>」であり、論理国語の学習が<u>確実に内側で根を張っている層</u>だと評価できます。</p>

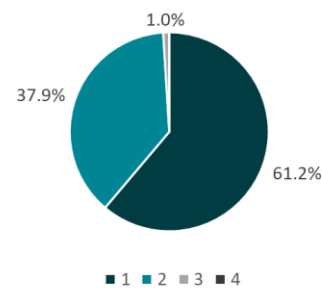
E.表現について	人数	%
1.自分の考えを表現する機会が多い授業だった。	83	80.6%
2.どちらかといえば自分の考えを表現する機会がある授業だった。	20	19.4%
3.どちらかといえば自分の考えを表現する機会が少ない授業だった。	0	0.0%
4.自分の考えを表現する機会がほとんどない授業だった。	0	0.0%



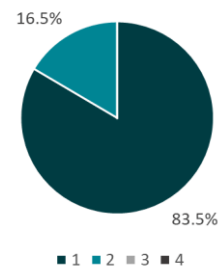
F.安心安全な土壌について	人数	%
1.分からないことを聞けたり、自分の考えを安心して言えるなど、安心安全な空気感のある授業だった。	87	84.5%
2.どちらかといえば、安心安全な空気感のある授業だった。	15	14.6%
3.どちらかといえば、安心安全な空気感のある授業ではなかった。	1	1.0%
4.安心安全な空気感のある授業ではなかった。	0	0.0%



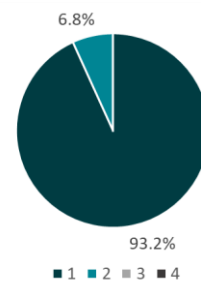
G.自分の個性や強みを活かせるような授業でしたか	人数	%
1.そう思う	63	61.2%
2.どちらかといえば、そう思う	39	37.9%
3.どちらかといえば、そう思わない	1	1.0%
4.思わない	0	0.0%



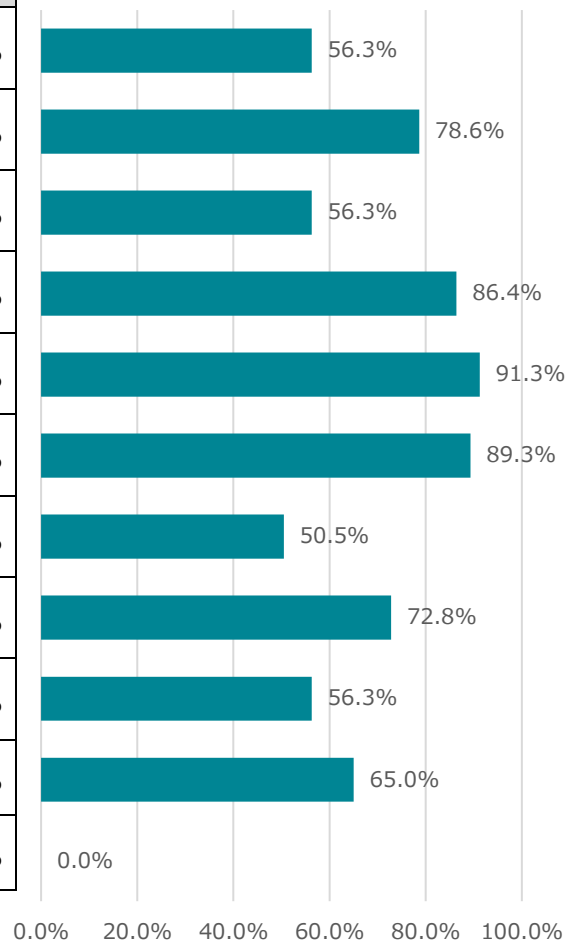
H.試行錯誤するような授業でしたか	人数	%
1.そう思う	86	83.5%
2.どちらかといえば、そう思う	17	16.5%
3.どちらかといえば、そう思わない	0	0.0%
4.思わない	0	0.0%



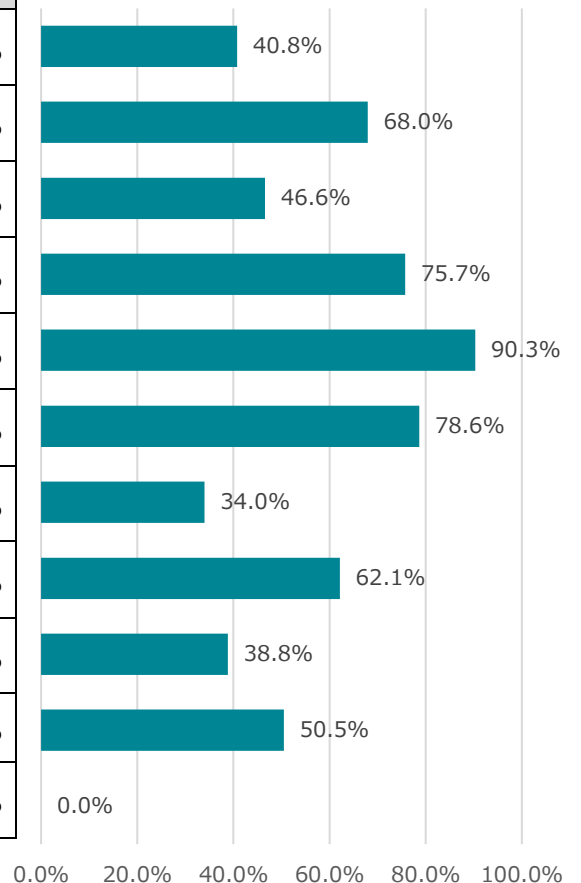
I.すぐに答えが出るようなものではなく、多様な見方や考え方があることを想定して、考え続けるような授業でしたか	人数	%
1.そう思う	96	93.2%
2.どちらかといえば、そう思う	7	6.8%
3.どちらかといえば、そう思わない	0	0.0%
4.思わない	0	0.0%



J.求められた力(複数回答可)	人数	%
1.順序付ける(複数の対象について、ある視点や条件に沿って対象を並び替える。)	58	56.3%
2.比較する(複数の対象について、ある視点から共通点や相違点を明らかにする。)	81	78.6%
3.分類する(複数の対象について、ある視点から共通点のあるもの同士をまとめる。)	58	56.3%
4.関連付ける(複数の対象がどのような関係にあるかを見付ける。)	89	86.4%
5.多面的に見る・多角的に見る(対象のもつ複数の性質に着目したり、対象を異なる複数の角度から捉えたりする。)	94	91.3%
6.理由付ける・原因や根拠を見付ける(対象の理由や原因、根拠を見付けたり予想したりする。)	92	89.3%
7.見通す・結果を予想する(見通しを立てる。物事の結果を予想する。)	52	50.5%
8.具体化する・個別化する・分解する(上位概念に当てはまる具体例を挙げたり、下位概念や要素に分けたりする。)	75	72.8%
9.抽象化する・一般化する・統合する(上位概念や法則を挙げたり、複数の対象を一つにまとめたりする。)	58	56.3%
10.構造化する(考えを構造的に整理する。)	67	65.0%
11.該当するものはない	0	0.0%



K.身に付いた力(複数回答可)	人数	%
1.順序付ける(複数の対象について、ある視点や条件に沿って対象を並び替える。)	42	40.8%
2.比較する(複数の対象について、ある視点から共通点や相違点を明らかにする。)	70	68.0%
3.分類する(複数の対象について、ある視点から共通点のあるもの同士をまとめる。)	48	46.6%
4.関連付ける(複数の対象がどのような関係にあるかを見付ける。)	78	75.7%
5.多面的に見る・多角的に見る(対象のもつ複数の性質に着目したり、対象を異なる複数の角度から捉えたりする。)	93	90.3%
6.理由付ける・原因や根拠を見付ける(対象の理由や原因、根拠を見付けたり予想したりする。)	81	78.6%
7.見通す・結果を予想する(見通しを立てる。物事の結果を予想する。)	35	34.0%
8.具体化する・個別化する・分解する(上位概念に当てはまる具体例を挙げたり、下位概念や要素に分けたりする。)	64	62.1%
9.抽象化する・一般化する・統合する(上位概念や法則を挙げたり、複数の対象を一つにまとめたりする。)	40	38.8%
10.構造化する(考えを構造的に整理する。)	52	50.5%
11.該当するものはない	0	0.0%



L.この授業であなたが「学び」を実感した時はいつでしたか。また、その時に何を感じましたか。(ChatGPT で要約)

1	<p>日常生活とのつながりを実感した学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ニュースを見るとき、家族や友人と話するとき ◇授業外で社会問題(古い・自己責任論・自由など)を考え直したとき ◇日常の出来事に対して「背景」「別の見方」を考えられたとき →学びが「学校の中だけのものではない」と気づいた →自分の見識や視野が自然に広がっていたことへの驚き →当たり前だと思っていた考えを疑う視点の大切さ
2	<p>小論文・レポート・文章作成を通した学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇小論文を書き上げたとき、書き直しをしたとき ◇添削や相互評価を受けたとき ◇1年次と3年次の文章を比較したとき →論理的に書けるようになったという成長実感 →主張・根拠・構成を意識する重要性への気づき →「書くこと＝考えること」だと理解できた達成感 →昔の自分を越えられたという自信
3	<p>問題演習・解説書作成を通した学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇正誤の根拠を説明できたとき ◇選択肢の違いや論点を見抜けたとき ◇共通テストや模試で点数・正答率が上がったとき →感覚ではなく「論理」で解けるようになった実感 →読解のコツが無意識に使えるようになった成長 →勉強が「作業」から「意味のある行為」に変わった
4	<p>他者との意見交流・協働の中での学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ペアワークやグループでの答え合わせ ◇他人の小論文・スライド・意見を見たとき ◇自分とは異なる視点に出会ったとき →自分の考えの偏りや不足への気づき →新しい発想を得られる面白さ →対話によって思考が深まる感覚 →他者の存在が学びを加速させるという実感
5	<p>プレゼン・スライド・動画作成などアウトプットを通した学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇情報を集め、整理し、伝える過程 ◇1回目の失敗を2回目に改善できたとき ◇インプットした知識を自分の言葉で表現できたとき →アウトプットによって理解が深まるという発見 →「伝える力」が思考力と直結しているという理解 →本気で考えている自分への気づき
6	<p>思考の変化・価値観を更新する学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇自己責任論・古い・自由などのテーマに触れたとき ◇自分の意見が資料や文章によって揺さぶられたとき ◇簡単に結論を出せなくなったとき →自分の考えが更新され続けている感覚 →物事を単純に判断することの危うさ →「考え続けること」自体が学びであるという認識
7	<p>成長の可視化・振り返りによる学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇過去の自分と現在の自分を比べたとき ◇振り返りを通して次の課題が明確になったとき ◇「できるようになったこと」を自覚できたとき →知らないうちに力が積み上がっていた驚き →学びが連続しているという安心感 →今後も学び続けたいという前向きな気持ち
総評	<p>生徒の回答から浮かび上がるのは、「論理国語の学びは、知識の獲得ではなく、思考の質の変化として実感されている」という点です。</p> <p>多くの生徒が、「書く・読む・話す・比べる・振り返る」「正解のない問いに向き合う」「他者の視点を取り入れる」という経験を通して、「考え方が変わった」「視野が広がった」「自分が成長していると感じた」瞬間に学びを実感しています。</p> <p>つまりこの授業は、テストの点数や技能向上にとどまらず、生徒自身が「学ぶ主体」へと変化する場になっていたと言えるでしょう。</p> <p>これらの記述は、「論理国語が育てた学力は、“考える人間”を育てている」ということを物語っています。</p>

M.あなたにとって「論理国語を学ぶ意味」とはどのようなものだと思いますか。(ChatGPT で要約)

1	多角的に物事を考え、視野を広げるため
	<ul style="list-style-type: none"> ◇一つの見方に決めつけず、複数の視点から考える力を身につける ◇自分とは異なる価値観・意見・立場に触れることの重要性 ◇物事を俯瞰的・客観的に見る姿勢の形成 <p>⇒「<u>世界の見え方を広げる教科</u>」「<u>思考の幅を拡張する学び</u>」として捉えられている。</p>
2	自分の考えを深め、言語化・可視化するため
	<ul style="list-style-type: none"> ◇頭の中にある曖昧な考えを言葉にする ◇書くことで思考の足りない部分や矛盾に気づく ◇小論文・レポートを通して考えが整理・深化する <p>⇒「<u>自分の思考をはっきりさせるための教科</u>」として強く意識されている。</p>
3	論理的に伝え、相手に理解・納得してもらう力を育てるため
	<ul style="list-style-type: none"> ◇主張と根拠を筋道立てて説明する ◇誰にでも同じように伝わる文章構成を意識する ◇日常会話・発表・将来の社会生活で役立つ力 <p>⇒「<u>考えたことを他者と共有するための技術</u>」として位置づけられている。</p>
4	文章を正確に読み、情報を整理・判断する力を養うため
	<ul style="list-style-type: none"> ◇筆者の主張や根拠、構成を読み取る ◇表面的な理解にとどまらず、背景や意図を考える ◇情報化社会で真偽を見極める力につながる <p>⇒「<u>情報を読み解き、判断する基盤</u>」として認識されている。</p>
5	他者の意見に触れ、考えを修正・更新するため
	<ul style="list-style-type: none"> ◇意見交換を通して自分の考えを見直す ◇他者の視点から学び、選択肢を増やす ◇寛容さや柔軟性を身につける <p>⇒「<u>他者と関わりながら思考を磨く場</u>」として捉えられている。</p>
6	正解のない問いや社会的テーマに向き合うため
	<ul style="list-style-type: none"> ◇社会問題、哲学的テーマ、自己責任論などへの思考 ◇感情や思い込みではなく、根拠をもって考える ◇自分なりの価値観・判断基準をつくる <p>⇒「<u>自分の生き方を考えるための教科</u>」としての意味を持っている。</p>
7	他教科・受験・将来の学びや社会生活につながる基礎力
	<ul style="list-style-type: none"> ◇大学のレポート、卒論、社会での文書作成 ◇他教科の理解や学習全体の土台 ◇受験のためだけでなく、その先を見据えた学び <p>⇒「<u>すべての学びと社会生活の基盤</u>」として認識されている。</p>
8	自分自身と向き合い、成長するための時間
	<ul style="list-style-type: none"> ◇振り返りを通して自分を見つめ直す ◇好奇心の使い方や、自分の考え方の癖に気づく ◇人生を豊かにするための土台づくり <p>⇒「<u>自分自身を成長させるための学びの時間</u>」として捉えられている。</p>
総評	<p>生徒の回答から一貫して読み取れるのは、<u>論理国語が「国語の技能習得」にとどまらず、思考・価値観・生き方そのものに関わる学びとして受け止められている</u>という点です。</p> <p>生徒にとって論理国語を学ぶ意味は、「多角的に考える」「自分の考えを深め、言葉にする」「根拠をもって伝え、他者と理解し合う」「社会や人生と向き合う」といった力を育てることであり、それらは<u>他教科・受験・将来・日常生活へと確実に繋がる力</u>として認識されています。</p> <p>総じて論理国語は、「<u>考える力</u>」と「<u>伝える力</u>」を軸に、<u>生徒が社会の中で自分らしく判断し、行動していくための基盤を育てる教科</u>として機能しており、生徒たちの言葉は、その教育的意義が生徒自身にしっかり届いていることを明確に示しています。</p>

N.この授業を受けた1年間の感想を述べてください。(ChatGPTで要約)

1	<p>「考えさせられる」「価値観が変わる」授業だった</p> <p>◇正解を教えられるのではなく、自分で考える授業だった ◇今まで考えたことのなかったテーマ(学ぶ意味、老い、社会、教育など)に向き合えた ◇一つの考えに決めつけず、物事を多面的に捉えられるようになった →論理国語＝思考や価値観を揺さぶり、更新する授業という印象が非常に強い。</p>
2	<p>国語力・文章力・読解力の「確かな成長」を実感できた</p> <p>◇文章が読みやすくなった／模試や共テの点数が上がった ◇接続詞・構造・根拠を意識して読めるようになった ◇小論文の構成や書き方が分かり、苦手意識が薄れた ◇語彙力・日本語力が伸びたと感じている生徒が多い →努力が結果として可視化される授業であり、「できるようになった」という実感が自信につながっている。</p>
3	<p>小論文・レポート・アウトプットの経験が大きかった</p> <p>◇書くことで自分の考えの浅さ・曖昧さに気づいた ◇推敲を重ねる力、論理的に整理する力が身についた ◇1年次と3年次の文章比較で成長を実感できた →「書く＝考える」経験を通して思考が鍛えられたという認識が広く共有されている。</p>
4	<p>主体的に学ぶ授業スタイル(カスタムラーニング)の評価</p> <p>◇自分に必要な学習を選べたことが良かった ◇得意を伸ばす／苦手に挑戦する選択ができた ◇計画性・自己管理能力が身についた →「やらされる授業」ではなく「自分で進める学び」として高く評価されている。</p>
5	<p>他者との意見交流が思考を広げた</p> <p>◇友達や先生の意見で新しい視点を得られた ◇自分一人では気づけない考え方に出会えた ◇安心して意見を出せる雰囲気があった →対話によって学びが深まる授業であり、心理的安全性の高さも印象に残っている。</p>
6	<p>「楽しい」「新鮮」「今までにない」国語の授業だった</p> <p>◇学までの国語とは全く違った ◇眠くならない／退屈しない ◇3年間ずっと新鮮だった →国語観そのものを変えた授業として記憶されている生徒が多い。</p>
7	<p>受験・大学・将来につながる学びだった</p> <p>◇大学のレポートや論文に役立つ ◇総合型選抜・自己推薦書で活かした ◇社会に出ても必要な力だと感じた →受験対策を超えた「生きる力」としての学びと捉えられている。</p>
8	<p>教師・授業への信頼と感謝</p> <p>◇どんな時でも生徒の意見を尊重してくれた ◇先生の考え方・言葉・エッセイが印象に残った ◇先生に支えられた、救われたと感じている生徒も多い →授業内容だけでなく、「この先生の授業だったからこそ成立した学び」という認識がはっきり見られる。</p>
総評	<p>生徒の感想から一貫して読み取れるのは、この授業が「国語を教える授業」を超えて、「考え方・学び方・生き方を育てる授業」として生徒に届いていた、という点です。</p> <p>生徒はこの1年間(そして3年間)で、「考えることの面白さ」「書くことの難しさと楽しさ」「他者と学ぶ価値」「自分で学ぶという責任と自由」を体感しています。</p> <p>また多くの生徒が「点数が上がった」「力がついた」だけでなく、「自分の価値観が変わった」「国語が好きになった」「学ぶ意味を考えるようになった」と述べており、学力と人間的成長が同時に起きている授業であったことが明確です。</p> <p>総じてこの授業は、生徒の中に「思考の軸」を残し、卒業後も効き続ける学びを提供していたと言えるでしょう。</p>